

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的な志向を持つ学生に対応した授業形態を検討する。	→「教育学研究科の教育課程および授業形態を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」 「履修者数規模別の授業科目数」 「少人数授業の授業形態の調査」 「規模別講義室・演習室の使用状況」 「マルチメディア教室の稼働率」	B	B	B		
2. シラバスと授業内容との整合性について、継続的に検証する。	→「学生による授業評価の実施率」 「学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率」	A	A	A		
3. 教育学研究科における成績評価のあり方について、問題点の抽出と改善の方策を継続的に検討する。	→「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と開催頻度」 「各授業科目の成績分布」	C	C	C		
4. 修士論文・博士論文の指導体制について、実施結果の検証を行う。	→「学生へのアンケート調査」	C	C	C		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	すべての授業が少人数で行われ、研究指導計画に基づく丁寧な研究指導、学位論文作成指導を行っている。マルチメディア教室は、前期課程の学生を中心に有効に利用されている。学生の志向がどのような傾向にあるのかを捉えて学習指導の適切性について検証するところまでには至っていない。
目標2	シラバスは学生がウェブ上で閲覧できるようにしている。学生による授業評価を実施し（実施率100%）、授業担当教員が個別にシラバスと授業内容の整合性および、授業内容の適切性について自己評価を行っている。
☆ 目標3	開講科目および修士論文については、幼児教育学領域と臨床教育学領域が、各々領域別に評価を行っているが、教育学研究科全体で成績評価および単位認定の適切性について検討し、検証するところまでには至っていない。博士論文については、領域を超え、研究科全体で評価する体制があり、それに従って評価は適切に行われている。
目標4	学生対象のアンケート調査結果を基に、科目担当者が個別に授業内容および方法の改善を図っている。特に修士論文・博士論文の指導については、担当教員による自己評価と、課題設定が行われている。2010年度末には、大学院における研究演習（ゼミ）指導の現状と課題について、また、2011年度末には、今後の指導体制・方法について、研究科のFD研究会を実施し、検討した。
備考	